

NO NUKES まちの便り まちの声

非核平和自治体情報誌

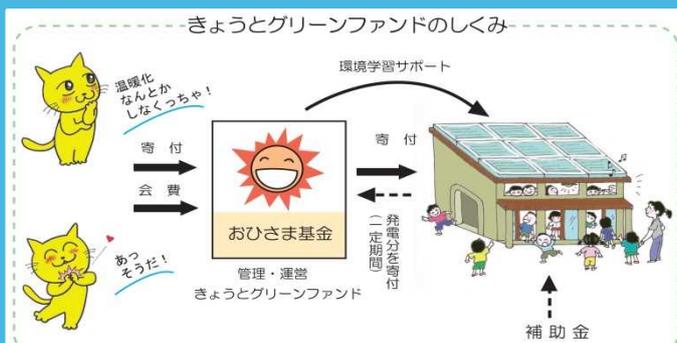
2014/1/15 3号

発行: 非核の政府を求める京都の会

■美山町 由良川上流に位置する「田歌舎」 太陽光発電



■きょうとグリーンファンドの「おひさま発電所」システム図



連載 自然再生エネルギーに挑戦する人々

—目 次—

笠置町の松本勇町長へのインタビュー……………	2～3 頁
小規模自治体の取り組みと生き残りを賭けた苦闘をたどる	
わがまちの非核・平和施策:福知山市……………	4 頁
8月「ミニミニ原爆展」を5ヵ所で開催／中・高生を広島 19 人、長崎3人、 沖縄 5 人派遣／小水力発電は実証実験段階	
連載「自然再生エネルギーに挑戦する人々」③太陽光……………	5～6 頁
「きょうとグリーンファンド」と美山町・「田歌舎」	
連載「原発のない日本を求めて、講演行脚②……………	7 頁
—真実なくして、フクシマも子どもたちも救われない—	
寄稿：「ドイツの環境・エネルギー政策視察」レポート……………	7～8 頁
連載「NO NUKES 千秋(せんしゅう)の想い」③……………	9 頁
朝鮮半島につながる日本海を「非核の海」に！ その一歩として舞鶴港に 核兵器艦船を入れさせない！	

笠置町の松本勇町長へのインタビュー

小規模自治体の取り組みと生き残りを賭けた苦闘をたどる

笠置町は京都府最南端に位置し、人口1864人の府下最小の町といわれていますが、南北朝時代の史跡＝笠置山を擁し、緑と水と太陽に恵まれた町です。12月10日、本誌編集部は松本勇笠置町町長に、再生可能エネルギーや非核平和に関するインタビューを行いました。以下はその要約です。

再生可能エネルギーへの試行錯誤、自治体の新しいありかたを探る町長の悩み、求められる国・府の支援

松本町長 笠置町では、3.11以前から原発に替わる代替エネルギーについて考え、役場の裏斜面を利用して、太陽光・メガソーラーの計画を立てたこともありました。しかし他方で、同志社大学の千田教授の教えで、マイクロガス化プラントという、生ゴミから発電を考え、学研都市にできあがっている試作機を実用化できれば、その方がいいという意見が出され、それに乗り換えた経緯があります。

笠置町は山林ばかりなので、山林の間伐材を利用したチップ材で暖房器を考え、チップ材を使った温室も作りながら植物工場を企画し、その廃棄物をマイクロガス化プラントで発電する。その発電を温室の電気に利用する。そういう循環型社会を考えました。だが構想通りにはいかず、ストップ状態です。

ここは山間なので、谷、水路もたくさんあり、小水力発電も計画しました。谷の水を一カ所に集めればいいのだが、かなり経費がかかるということで、暗礁に乗り上げました。これから木津川の支流の白砂川の河川改修を行っていく。平成26年度から京都府の地域主導型の公共事業(3年間で1億円)に着手することが決まっています。笠置町は観光事業が中心なので、観光振興という面でも将来的に小水力を昔



倉舎から木津川、笠置橋をのぞむ

の水車小屋のような形で利用することができないか検討しています。

この地域は山間地で農業後継者はほとんどいません。荒れた農地を利用しながら太陽光発電をやっていきたい。しかし小さな町には初期投資の負担がきびしい。国の補助金制度があればいいのですが。

本誌編集部 前号で報じましたが、伏見工業高校の足立先生が、誰でもできる小水力発電と、ホームセンターなどで道具を買って作るといったことを実践されています。また水車小屋風のものも作っています。また嵐山の小水力発電にはマンマーのアウンサンスーチーさんが視察され、この程度の水量であればマンマーでも大丈夫だと、感動されたようだ。

松本町長 昔はどこの町にも水車小屋があり、米をついた。そんなに難しいものではないだろう。木で作れる。景観的にもいいものを作りたいと思います。この地域は地滑りが多い。地下水が多すぎ、その影響で崩落する。それを京都府などで大きな井戸を掘ってもらい、横からボーリングして水を出し、その水を利用して小水力をしたいと思っています。

マイクロガス化プラントは自治体ではまだどこにも設置されていないので、笠置町に1号機をと思っています。小水力とマイクロガス化プラントの2つをセットで対応していきたい。とくにマイクロガス化プラントは小型であれば、笠置町のような小さい町でも対応できるかなと考えています。生ゴミの対策と発電の両方ができれば、それにこしたことはない。このプラントでは、生ゴミは炭として残る。炭であれば後の応用もできるだろう。普通は生ゴミからメタンガスを発



生させるが、その場合には必ず廃棄物を最終処分場へ持っていかないといけない。炭化物であれば地中に戻すこともできる。こんな小さな町ですが、特化した何かをやっていきたい。隣村は豚を千頭ぐらい飼っているが、その豚の匂いが問題になっているようだ。結局は糞尿の後始末ということになる。同志社大学でも馬術部があるが、千田先生はその馬の糞尿の処理に1号機を持っていきたいといわれているが、是非、笠置町にと言っている。

自治体も以前とは違って、何かを特化した物を作りながら自立しなければならぬ。そこに昔とは違った自治体の姿が見えてきた。合併に取り残された小さい町は、生き残りをかけた動きになるのかなと思います。

本誌編集部 宮津市は地域循環型の社会をめざして、孟宗竹を原料にして、発電、肥料、加工物に着手している。また海の藻やオリーブとか。地域のなかでお金がまわる。天の橋立もありますが、それだけではなくて地域循環型経済をめざして、再生可能エネルギーの取組みをスタートにしようとしています。

松本町長 宮津市は大きいよ。各自治体がそれぞれに努力している。南山城村、和束町の東部3カ町村で連合体を作り、教育委員会やゴミ処理を一本化したりしている。後継者がおらず荒廃した農地を何とかしないといけない。これからの動きも始まっていますが、まだ発表する段階ではない。私たち小さな町なりに、全職員挙げて取り組んでいます。

好循環型社会をつくるということで、マイクロガス化プラントを中心に考えたが、その実現にはもう少し時間が必要である。環境省や総務省の事業のなかで、「緑の分権改革」にも取り組んできました。温泉施設をもっているが、その熱源としてチップ材とか木材を利用していきたい。しかし経済的に余裕があればいいのだが、木材に比して、まだ化石燃料の方が安く上がる。いろいろ実験をやりながらも、実現に向かって取組みを進めたい。

本誌編集部 情報を自治体間で交流をするシステムはできてないですか。

松本町長 情報を出したくないというのがあるようです。他の自治体は腹を割ったことは言いません。



松本勇町長と当会代表・望田幸男

それはやむをえないと思う。太陽光発電への補助金制度は行っていません。ここは笠置山という史跡があるので、家などに派手な色は塗れないとか、文化庁からの規制もあり景観の問題から太陽光も難しいのです。ソーラー発電をするから山を貸してほしいとってきたので、それはいいよと、そういうことはある。笠置町では新しく家が建つということはない。古い家ばかり。古い瓦屋根に太陽光発電をつけると雨漏りの原因になるらしい。電力の買い上げも平成26年3月までではなく、もう少しのばしてほしいし、国の補助金があれば、笠置町もぜひ取組んでいきたいと思う。

国民平和行進には一緒に歩いている。核兵器廃絶については、先生から教えられて、広島原爆資料館を見て理解した。核兵器はない方がいいだろう。しかし原子力発電は別のものではないか。だが福島原発のことを思うと、他のものに替えた方がいいと思う。では原発全部反対かということ、あるものは利用し、耐久年度がきたら他のものに変えていったらいい。核燃料の廃棄物の処理が一番大きい問題ではないかと思います。ドイツでも止めるとは決めたが、廃棄物の処理は決まっていない。

本誌編集部 しかし日本では地震は不可抗力の災害をもたらしますし…。最後にひとこと。

松本町長 土地にへばりつく農業は、国土を、文化・地域・社会を守ることだ。人間が生きていく基礎だと思う。農業で地域の保全をしていく。環境面でCO2削減。里山を守るのは国の責任です。山を放置するから災害や地域の崩壊につながる。笠置町も以前は竹藪はあまりなかったが…。竹も利用のしよによっては良くも悪くもなりますが。

わがまちの非核・平和施策：福知山市

福知山市の非核・平和施策を紹介いたします。福知山市は2006年に旧福知山市、三和町・夜久野町・大江町とが合併し、人口が現在8万1千人。11月25日に同市市民人権環境部人権推進室の片山琢哉さんにお話をお聞きしました。



人権推進室の片山琢哉さん

8月「ミニミニ原爆展」を5ヵ所で開催

同市は、8月に日本非核宣言自治体協議会より寄贈されたパネルの展示会を「ミニミニ原爆展」と称して市庁舎、三和支所ロビー及び市内の人権ふれあいセンターで開催しています。市庁舎と支所では平和首長会議加盟都市5000突破記念原爆ポスターの一部を展示物に加え、



「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める署名ブースも設置しています。

中・高生を広島19人、長崎3人、沖縄5人派遣

また平和教育と差別を許さない人材の育成をめざして、毎年現地学習を目的に中学生を広島、高校生を長崎と沖縄に派遣しています。参加の条件は公立、私立を問わず、福知山市に住んでいるかまたは福知山市の学校に通っていればよく、小論文を事前に書いてもらうとのこと。今年は広島に19人、長崎に3人、沖縄に5人が参加、児童センター・児童館からの中学生への働きかけもあり、広島への参加が多かったとのこと。参加する生徒は事前学習を行うとともに、現地学習終了後、

市内のFM放送での報告や、8月の人権講演会前段での報告やパネル展示などを行い、戦争の残酷さや平和の尊さなど現地で学び取ったことを自分の声で市民に届けています。「今年の参加者の中には、中学生の時に広島に行き、高校生になって長崎に行くなど、戦争や原爆など平和への強い思いをもった生徒がいました」と片山さんは話します。これまで参加した学生たちにアンケートを送ったが、戦後70年の2015年に開催する予定の「平和・人権若者交流事業」の企画・運営に参加したいとの声が寄せられています。

8月には人権強調月間推進事業として、長崎・沖縄の現地学習の報告会とともに、「人権を考える市民のつどい」を開いています。今年は落語家桂春蝶さんによる平和に関する想い「明日ある君へ～知覧特攻物語～」を開催（300人参加）。昨年度は堀絢子さんによる平和に関する一人芝居を開催しました（343人参加）。アンケートには、「堀さんのひとり芝居を見て、広島原爆の悲しさがわかりました」「戦争が風化しないように、語りつぐということの大切さを感じました」「もっともっと多くの人に聞いてほしかった。核の恐ろしさ、原発一核」などと綴られていました。

片山さんは現在の担当になって3年目。人権問題に関心をもたれ、難しい所はあるが、勉強したり上司に聞きながら、原爆の被害などを世界に伝えることはできる、と想いを話してくれました。

小水力発電は実証実験段階

最後に、福知山市の再生可能エネルギーについてお聞きしました。由良川の影響で霧が発生し、日照時間が短いなど、太陽光発電には不利な地域。いま小水力発電が実証実験の段階で、京都府立工業高校と連携した取組みが始まったばかり。まずは安心安全な生活を担保できるようなエネルギーについて調査していきたいとのことでした。



嵐山・小水力発電機、台風・豪雨に耐えた！

昨年9月16日、台風18号の豪雨の襲われた渡月橋・小水力発電機。嵐山保勝協会理事・吉田さんに何うと「発電機自体に損傷はなかった。しかし電気配線や基板の点検のため、しばらく休止させていた」とのこと。

毎時 2.35 kw 発電

←2014年1月1日午後2時の発電



連載 「自然再生エネルギーに挑戦する人々」③太陽光
市民共同出資のおひさま発電所

太陽光パネル
園舎の屋上に設置
した太陽光パネル

子ども達に大人気！
発電量を表示する
表示盤

今回は、京都府内の幼稚園や保育園などに太陽光発電を設置する「きょうとグリーンファンド」とそのシステムを利用して太陽光発電を導入された美山町・田歌舎を訪問しました。



■「きょうとグリーンファンド」
子どもたちの未来に、もっと自然エネルギーを



京都府内の幼稚園や保育園などに太陽光発電を設置する「きょうとグリーンファンド」を紹介。結成当初から活動に参加している事務局長の大西啓子さんに非核の会事務局が取材し、取り組みや想いをお聞きました。

きょうとグリーンファンドは2000年に歩みを始めました。現在、会員は約80名。1997年COP3が京都で開かれたこともあり、地球温暖化を何とかしたい、ひとつしかない地球で生きていくためには、地球を守る自然を守ることが大事だとの想いをもった人たちが集まりました。「エネルギーの使い放題は心せねば。原発はなくしたい。社会を変えるためには、まず節電の工夫など自分たちのライフスタイルを変えていくことが大事」と話す大西さん。福島原発事故前から自然エネルギーの普及に力を注いできたことを熱く語ります。生活を見直すことで節電は多少進んでも、興味関心だけでは社会は動かない。そこで結成されたのが「きょうとグリーンファンド」です。

市民共同の資金で「おひさま発電所」

「みんなでつくろう！おひさま発電所」と呼びかけ、保育園などの施設に太陽光発電設備を設置し、節電・省エネの息吹を吹き込んでいます。おひさま発電所のながれはこうです。①市民や企業

が「おひさま基金」へ寄付。(会費も基金に入ります。)②「おひさま基金」は太陽光発電設備や、環境学習をすすめることに活用。(太陽光発電設備は、「おひさま基金」と設置施設の資金、市民からの寄付などを集め、設置します。)③おひさま発電所は発電分から一定額を「おひさま基金」に寄付してもらい、その一部を次の発電所設置や環境学習に充当。④きょうとグリーンファンドは、おひさま発電所が環境学習や情報発信の拠点になるようにサポート。

節電や環境学習も

おひさま発電所は現在17機。保育園や幼稚園の屋根などに太陽光パネルを設置して自然エネルギーを広めています。さらにゴミ・食べ物・肥料など様々なテーマで環境教室を開き、生活のあり方や環境の大切さを広げていくことにも繋がっています。「小さいころに節電などの習慣を身につけることが大事。子どもたちはすごい、家でも節電に気がつかうんです」と大西さん。こうして先生・子ども・保護者、そして地域にも生活の見直しや自然エネルギーの広がりが進んでいます。

きょうとグリーンファンド

正会員	1口 10,000 円/年
賛助会員	1口 6,000 円/年
法人・団体会員	1口 10,000 円/年

〒600-8191
京都市下京区五条高倉角塚町 21 事務機のウエダビル 206
TEL・FAX: 075-352-9150、E-mail info@kyoto-gf.org、URL <http://www.kyoto-gf.org>

■「美山町・田歌舎」

「おひさま発電所」はここにもあった！自然のなかに生きる。脱原発の彼方に遠望する新しいライフスタイル

グリーンファンド・おひさま発電所は、美山町の「田歌舎」に波及しました。このこの代表の藤原誉さんにお話をお聞きしました。



田歌舎は、田良川上流の美山川が流れる自然豊かな田歌にある自然学校です。宿泊してアウトドアツアーや自然体験に触れることができるうえ、自然の中で育まれた食材を使った料理が食べられるレストランもある。自然の中で生きることの楽しさや大切さを教えてくれる、自然的な暮らしが見える手作り満載のお店です。

この田歌舎に「おひさま発電所」が設置されています。藤原さんが太陽光発電を導入しようと考え始めたのは10年ほど前でしたが、資金の問題もあり、すぐには設置できませんでした。5年前には理事として関わるNPO法人芦生自然学校で小水力発電を導入しています。そうした中、東日本大震災が起り、福島原発事故が発生しました。この惨状を見て、藤原さんは太陽光発電の導入に取り掛かりました。「原発の安全神話はやはり間違いだった。もうこの問題

を後回しにするのはあかんやろ。何よりも太陽光発電の



導入を」と藤原さんは当時の想いを語りました。

太陽光発電の導入は決定したが、資金の問題をどうしようかと思った時に、知り合いの大学の先生から「きょうとグリーンファンド」を紹介してもらいました。導入資金は借りるしかなかったが、利子を払うのであれば次の太陽光発電設置のために払った方がいい。何より田歌舎は自然や環境保全を発信する自然学校であり、それに相応しいのではないかと考え、きょうとグリーンファンドとともにおひさま発電所設置に取り組みました。そして、こんな呼びかけを発しました。

“東日本大震災、福島原発の事故は、私たちに今ま

での日本のあり方と、これからどのような社会をめざすのかを根底から問いかけるものとなりました。”

“未来の日本人にどのような社会と自然環境を残すことができるのか、私たちは覚悟を迫られているのです。”

“豊かな自然を誇る美山町は大飯原発30キロ圏内のまちでもあります。”

“原発のいらぬまちを、私たちでつくろう！”



こうして田歌舎への太陽光発電導入への設備協力金（一部寄付金）を募り、2012年10月に「おひさま発電所」が完成しました。いま発電された電力はすべて電力会社に売電していますが、将来的には蓄電器の導入も考え、小水力発電や風力発電にも挑戦したいとのこと。

藤原さんが美山町に来たのは大学を卒業して半年後のこと。大学2年の時、バブルが崩壊し、地球温暖化問題がクローズアップされました。そうした中、自分に何ができるだろうかと考え、都会の生活はおかしいと思い、自然のある田舎で生きることを選びました。最初はお金も家もありませんでしたが、地域の人たちの支えもあり、養鶏場で働きながら、大工の仕事をして、田んぼを借りて農業を教えもらいながら地域に根づき、2003年に「田歌舎」を始めました。

藤原さんは、「自然にあるものを大事にすること。自然の中で暮らし、豊かな自然によって育まれているお米や野菜、鹿やいのししや鳥を食す。昔の日本の暮らしをもう一度見直すことが大事だ」と熱く語りました。こんな想いが、藤原さんを「田歌舎」へ、そして「おひさま発電所」という自然エネルギー運動へと導いているのでした。脱原発運動は、電力問題にとどまらず、まさにこれからの新しいライフスタイルの探求でもあるのです。



連載：原発のない日本を求めて、講演行脚

真実なくして、
フクシマも子どもたちも救われない

市川章人(元京都府立高校教諭)

9月下旬、仲間と連れ立って福島を視察。報道されていない衝撃的な現実があった。突然死が頻発し、「避難先で死ぬくらいなら家に」と全村避難したはずの村に高齢者が百人も戻っている残酷な事実。各地で起きる生物の異変、今も新聞に載る「第一原発付近の天気と風向き」を見ながらおびえる日々。

県内原発すべての廃炉が党派を超えた福島県民の声である半面、放射能への態度は複雑である。子どもの甲状腺ガンの異常発生に対し、「調査が精密すぎるせいだ」として被曝の影響を否定する住民がいる。チェルノブイリでは居住を禁止・制限した高汚染度の土地に東北全体で百万人が住みながら、危険性は語られず、問題ないとされ、“厳しい真実より、安心できる嘘”が流布している。

放射線は浴びても五感では分からない。低線量被曝は影響が出て直接の因果関係は不明で、統計的推定しかない。このような特徴が悪用され、被害軽減のためになすべき対策がとられていない。

流通する食品を通して全国に拡大する内部被曝も同様である。規制値以下の食品でも毎日食べれば、体内残留量が大きい、何の対策もとられていない。

何をすべきだろうか。50年100年と続く放射能とのたたかいを正しく進めるには、危険性の直

視が不可欠である。そのためには真実を知り、広めること、とりわけ子ども達に伝える必要がある。

しかし、政府は反対の道を進んでいる。そ

の一つに文科省が2011年秋から小・中・高の各学校へ配布した「放射線副読本」がある。内容は、原発事故の実相も生命への危険もまともに伝えず、「放射線は身近な自然にもあるから怖くない、100mSv以下なら病気にならない」と思わせることに力を入れている。従来、線量限度を年間1mSvとしていたはずなのに、これでは“服毒”本である。

これを危惧する声も多く、私も何力所か高校生相手に原発・放射能問題での「出前授業」を頼まれ、10月も京都市内の公立高校に行った。生徒たちには事実と科学的内容を伝え、どうすべきかを自分で考えてほしいと訴えた。食い入るように話を聞き、「もう終わったと思っていた」「こんな恐ろしいものとは思わなかった」「自分たちは騙されていた」「ニュースを聞いても難しいからすぐチャンネルをかえていたが、自分達こそ一番知る必要のあることだ」など実に真剣な感想であった。「もっと知りたい」という要望に応じて再度行ったところもある。

真実こそ力であり、子どもたちは希望である。

(当会常任世話人)



寄稿：「ドイツの環境・エネルギー政策視察」レポート

「目から鱗」
ドイツの環境・エネルギー政策を学ぶ。

浜田よしゆき(府会議員)

9月1日から8日まで、府議会・欧州調査団の一員として、フランスとドイツを視察してきました。ここでは、ドイツの環境首都といわれる、フライブルグ市、カールスルイエ市での環境・エネルギー政策の取り組みについて、学んだことを紹介します。

フライブルグ市ではまず、上海万博で、「環境と福祉を考えている団地」として紹介された



「ヴォーヴァン団地」を視察しました。日本などでは、「カーフリー団地」と呼ばれていますが、車がないのではなく、車の使い方にメリハリをつけていました。団地内には、緑化軌道のトラム（路面電車）が走り、車の最高速度6～7キロに制限、道路は袋小路になっています。車は持ってもいい



が、車庫はなく、集合パーキングでカーシェアリングするようになっていました。エコタウンということで、団地内の建物は、敷地ごとにエネルギー消費量を決めており、十分な日照を得られない敷地に起つ建物は年間エネルギー消費量65kwh/m²以下、南向きで日照のよい建物は年間15kwh/m²以下に制限されていました。

続いて、「プラスエネルギー団地」を視察しました。ここでは、すべての屋根にソーラーパネルが設置され、斜光性の屋根、部屋の機密性を徹底しており、その結果、売電価格が電力使用量を上回っている



ているようです。また、コールド・エア・プーリングとって、近くの山の上から冷えた空気が流れ

込むしくみになっているので、夏も涼しくて、電力の使用量が少なくすむそうです。

サッカー・ブンデスリーガー1部に所属する、SCフライブルグのホームスタジアムを視察しました。ここでは、1990年代初めに、住民参加型の地域電力の創出プログラムとして、太陽エネ

ルギープロジェクトがスタジアムの屋根を利用して、太陽光による電力と温水の創出を行っています。電力創出は、地域のエネルギー公社バデノバ社に売電しており、年間の創出量は27万5千kwh。温水創出は、傾斜角度30度のソーラーコレクター（約60m²）により、選手のシャワー等の温水を供給しており、温水タンク6千リットル、1日の需要約4千リットル、年間創出量は約2万5千kwh。

フライブルグ市では、1970年代に、酸性雨でシュヴァルツヴァルト（黒い森）が枯死の危機、近郊のヴィールの原発建設計画を反対運動で中止させたことなどがきっかけになり、黒い森を守るために、脱原発・自然エネルギー推進、大気汚染対策のためにも車の規制などの政策へ転換。エネルギー政策は、三本の柱一省エネルギー政策、再生可能エネルギーの促進策、新しいエネルギー・テクノロジー（コジェネレーションなど）一で推進。

カールスルイエ市の「エネルギーの丘」を視察しました。もともと7メートルのゴミの山だったところに、市民が出資して3基の風車を建設。風力発電の売電価格は、20年でもとが取れると計算。地下水汚染が残っているため、地下水をくみ上げて浄化する装置を設置。ゴミの山から収集したメタンガスを利用して、コジェネレーションを行っています。また、丘の斜面を利用して、太陽光発電も行っています。

ドイツ人の環境意識と経済・ビジネスの関係は、環境は大事だという土台の上に、効率より環境ビジネスという考え。その土台に、環境教育があり、大人になってからでは遅い、ということで3～4歳から行っており、エネルギーの丘でも、毎週金曜日に中学校のクラスが課外授業として行っているそうです。

最後に、案内をしてくれた、ドイツに18年住んでいる日本人ジャーナリストの方が、「福島原発事故は、日本人が考え直すきっかけになるのでは。50基の原発を止めても、東京は赤々と明るい夜が続いていた。電力は足りているではないか」と話されたのが印象的でした。



連載: NO NUKES ^{せんしゅう} 千秋の想い

朝鮮半島につながる日本海を「非核の海」に！
その一歩として舞鶴港に核兵器艦船を
入れさせない！

長谷川千秋（元朝日新聞大阪本社編集局長）

じぇじぇじぇ！ 知事が定例府議会の施政方針演説で、爆弾発言したのです。「いま、北朝鮮をはじめ北東アジアの軍事的緊張が続いている。その緩和に、地方自治体も役割を果たすべきだと思ふに至った。緊張のもとには核兵器だ。京都府は日本海をはさんで朝鮮半島とつながっている。この海を『非核の海』にしたい。その一歩として、『非核神戸方式』にならぬ、どの国であれ舞鶴港に入港を希望する艦船には、核兵器を積んでいない証明書の提出を義務付ける（注1）。舞鶴港に府が持つ港湾法上の管理権に基く。幸い舞鶴市は立派な『核兵器廃絶・平和都市』宣言（注2）をしており、昨2013年には平和首長会議（注3）にも加盟して環境が整った。府議会には力強い非核自治体宣言を決議して（注4）バックアップしていただきたい」。

じぇじぇじぇはさらに続きました。その日午後、今度は京丹後市長が記者会見し、「当市も早くから非核3原則厳守の平和都市宣言をし、平和首長会議に加盟している。日本海をはさんで空もまた朝鮮半島とつながっている。ミサイルも迎撃ミサイルも飛び交ってほしくない。経ヶ岬への米軍Xバンドレーダー基地建設には反対する」と表明したのです。翌日の新聞は「軍事力に前のめり、日米同盟強化をいうだけで中韓との首脳会談すら未だできない安倍政権の外交無策に嫌気がさした」と両首長が決意表明に至る背景を解説しました。（注5）

さあ大変。政府も、府も、京丹後市も、大騒動に。事態はどう発展するか…残念、ここで目が覚めちゃった。2014年、私の初夢でした。

これは正夢にはならないでしょうか。首長のリーダーシップと府民の後押しがあれば、十分可能だと私は思います。興味ある方は「注」をお読みください。



（注1）「非核神戸方式」は1975年、神戸市議会で採択された「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」に基き、神戸市が採用している。以来、核兵器の存在を否定も肯定もしない（NCND）政策をとるアメリカの艦船は神戸港には1隻も入港していない。詳細は当会HP「非核キーワード」参照。

（注2）舞鶴市の「核兵器廃絶・平和都市宣言」（1990年、市議会採択）は市是とする「平和な産業港湾都市」の実現を強調している。（当会常任世話人）

（注3）世界の都市が国境を超えて連帯し核兵器廃絶をめざす平和首長会議には2013年12月1日現在で核保有国も含め5831都市が加盟。日本は1392都市。うち京都は21市町村。平和首長会議HP参照。

（注4）京都府はまだ非核自治体宣言をしていない。参考になるのは高知県の取り組み。1997年、橋本大二郎知事（当時）が非核神戸方式を導入しようとした際、県議会は「高知県の港湾における非核平和利用に関する決議」を自民党を含む全会一致で採択、知事を援護した。国の妨害でまだ実現していない。兵庫県原水協発行の冊子「波よひろがれ 非核『神戸方式』物語 30周年記念」参照。

（注5）経ヶ岬へのレーダー配備はアメリカ防衛のため、と多くの専門家が指摘している。例えば▼「ミサイル迎撃は不可能一元外務省国際情報局長、孫崎享さんに聞く」京都民報2013年5月26日付▼元外交官、天木直人氏ブログ2013年11月11日付「日本のミサイル防衛は米国のためである事を認めた読売」。



取材後記

★田歌舎で鹿肉のカレーをご馳走になった。さっぱりして美味しかった。藤原さんによれば、鹿や猪が異常に増えてきている。昔の住民が狩猟で適当に間引いてきたように、自然のバランスをこわさない程度に狩猟にも力をいれているとのこと。（右写真は鹿肉のカレー）

